

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 千葉中央教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 3月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2026年 3月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童が通所を楽しみにしている	一人ひとりの個性や特性に配慮し療育を実践し、必要なスキルの向上に資する活動を提供	活動が固定化されないように様々な活動を企画イベントの実施。現在の関わりを継続しつつ、子ども自身が安心や楽しさを言葉や行動で表現できる機会を増やしていく。
2	安心感をもって児童が通所できている	子ども一人ひとりの特性やその日の状態を丁寧に把握し、無理のない関わり方や環境調整を行っている。安心できる環境の中で気持ちを整えられるよう支援している。	環境調整の方法や判断基準を職員間で共有し、支援の質の均一化・向上を図る。
3	学習支援に力を入れており、宿題支援だけでなく、苦手な単元にフォーカスを当てて学習を進めることが出来る。	利用者様の学力や保護者様の希望に応じて、提供する学習内容を変更したり学習の量を調整し、強制ではなく主体性をもって取り組めるようにしている。	まずは安心して通所して貰える場所として提供出来る様配慮する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携や関わりが希薄である	連携の仕方や関わり方が分からない	定期的な見学会や体験会の実施 地域のイベントへの参加
2	保護者同士で交流する機会やきょうだいで交流する機会を設けることができていない。	保護者会等の集まりを企画する際の時間調整や実施方法の検討が十分に行えていなかった。	今後は、少人数・短時間での交流の場を段階的に検討し、参加しやすい形で家族同士のつながりを広げていく。
3			